

2007年5月入職

たちばなあや
立花彩

一点モノの場所を、自分たちでつくっていきける

アイデアを提案できるのが楽しい

今の施設には開設当初から勤務していますので、思い入れは強いですね。組織としてのベースはあったものの、どんな施設にしていくのか、どういうケアを行ってあげればいいのかといった具体的なディティールは、自分たちで煮詰めていきましたから。

たとえばタイムテーブルの設定でも、「どうすれば無理なく入浴していただけるか」といったところを考えながら決めていきました。食堂の籠や備品を運ぶカートなどもスタッフの意見が取り入れられています。こういったアイデアを提案できるのはすごく楽しいですね。

善仁会の施設は、それぞれに建物の造りも雰囲気も違うので、一点モノの場所を自分たちでつくっていきけるのも1つの魅力だと思います。

初心に戻るきっかけになった



私でいいのだろうか。エキスパートケアワーカーの候補に選ばれたとき、そんな不安が胸をよぎりました。もちろん、やってきたことに自信がないわけではありません。しかし、特別なことを行ってきたとも思えなかったのです。そんな中で研修がはじまったのですが、一緒に学んでいた他のスタッフの様子を見ているうちに、自分に足りない部分が浮き彫りになってきました。

私と同じ所作をしているはずなのに、他のスタッフのケアには思いやりがあふれていると、ひと目で分かるんです。ひょっとしたら私は、ただこなしているだけなのかもしれない。もともとは好きではじめた仕事なのに、いつの間にか業務に追われていたのではないかと思います。そこからは初心に戻り、思いやりの気持ちを常に意識しながら日々の業務に取り組むようになりました。今はみんなのお手本になれるように頑張ろうと、勉強会の開催なども考えています。「遠藤さんみたいになりたい」。そう思ってもらえる存在へと成長していければうれしいですね。



目指せ満足

立花彩